

2019年3月18日 千葉大学アカデミック・リンク・センター 第5回ALPSセミナー  
高等教育における著作物の利用促進とそれを支援する体制

参加者アンケート

当日参加者数：63名

アンケート提出数：41件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・35条の内容と英国の事例
- ・新35条の意義や、読み解きができてとても良かったです。
- ・著作権の管理に図書館の役割が期待されていること
- ・英国との比較がわかりやすかったです。日本では著作権処理の管理が曖昧という現状。
- ・英国の大学では、著作権について、大変慎重に配慮されることが進んでいることがよくわかりました。
- ・大学教員も著作権者であるという視点は、盲点でした。英国の事例が知れて良かったです。
- ・日本国内での関係者フォーラムの議論の状況、英国の状況が分かりました。
- ・新法改正と英国の先進事例
- ・今回の改正のポイント、英国と比較することで日本の状況がよくわかった。著作権に関わる業務は図書館が対応することになるだろう、ということが段々明確に感じられるようになった。
- ・最新の状況、また貴重な英国の事例を知ることができました。
- ・著作権処理について、今後、図書館で出来るように、考えていかなければならないと感じました。著作権について、もっと勉強していきたい。
- ・著作権を守るための改正であることがわかった。
- ・イギリスの事例が参考になりました。
- ・ライセンス契約で利用できる著作物が全てではないのであれば、管理する部署が必要になってくることを改めて認識しました。近年、図書館の職員数は減少していると思われるが、その中で対応するしかなく、なるべく簡潔な手続きで利用できるように動いてくださっているということが分かりましたので、期待しております。
- ・著作権法の改正に関して、もっと具体的な状況が聞けるかと思っていましたが、なかなか合意が進んでいない状況を知りました。英国の実態が興味深く聞きました。著作物の教育利用は誰がサポートするべきなのかという問いに関心が生まれました。
- ・法改正に見合った制度を作るには時間がかかるということ。
- ・英国CLAの管理率が9割であること。CLAのDigital content storeで過去に利用された著作物が管理されていること。
- ・著作権法改正の主旨についてよくわかった。
- ・英国の事例が聞いて良かったです。
- ・「教育の質を高める」ための仕組みが整備されつつあることがわかり、心強かった。
- ・英国における著作物の教育利用が、とても進んでいることがわかり、日本でも早く、利用出来るようになれば良いと切に思った。
- ・教育機関における著作物利用について、最新の動向をわかりやすく伺えました。
- ・多くの課題と不安があるものの前提は非常にシンプルだと思いました。
- ・質問のテーマがわかりやすかった。

(次ページに続く)

- ・分配方法が決まっていないこと。
- ・著作権法改正の影響等。
- ・オープンアクセスのあつかいによって、補償金が変わる。
- ・今後の著作物の利用方法、図書館の役割、米国・英国の状況
- ・著作物の教育利用に関する現状、英国での状況
- ・フォーラムが終了したものの、まだ公表できるような形で決定したことはない、ということがよく分かりました。ただ、高等教育機関の代表として、竹内先生が種々ご主張をされていたことがよく分かりました。
- ・イギリスの先進事例や日本での今後の展望について。また、今回の法改正の趣旨がよく分かりました。

(以上原文まま)

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・大学・高専で、著作権について担当するのは誰なのだろう？各大学では、どのような経緯でそのようになったのでしょうか。
- ・先生が一般的に著作権が発生する資料をどのくらい使用しているのか。先生方が著作権処理の必要性をどのくらい認識しているのか。
- ・引用と著作権（申請）の程度。
- ・運用に関わるシステムの構築、改修についてどうなっていくのか？
- ・補償金を支払う金額が最初から決まっているのは、払わなくてもいい分まで払っているのではないかと思う。分配金を多くもらうために仲間内で著作物を利用しあうことがないか？そういう事があった場合対応できないのではないかと思う。
- ・スライド2-2のできることを、できないことを重点的に共有してもらいたい。
- ・権利者側の方のご意見が見えてこなかったもので、この先どのようになるのか、早めの情報公開をお願いしたいです。
- ・SARTRASの機能、役割、活動の範囲など。
- ・CLAでの教員＝利用者と著作物の同定の具体的な方法
- ・ブランクライセンスの支払いはCNAC加盟校のうちどれくらいが契約しているのか。
- ・オープンアクセス資料だけで授業をつくれる日が来る？
- ・動画等についても、紙ベースと同じ様な取り扱いになるのだろうか。
- ・著作権許諾の把握と合わせた運用について、イメージがつかめませんでした。
- ・千葉大学 Moodle で、共通のポリシーを整備してもらえると助かる。コストは結局大学の予算として、どこから支払うのか？学生か？
- ・図書館？
- ・英国はよくわかりましたが、外のヨーロッパ諸国や米国はどの程度異なるのか？
- ・国内での補償金の考え方及び実施方法
- ・最終的に、補償金額がどうなるのか、使用できる分量（書籍の〇〇%など）がどうなるかが気になります。ライセンス制度もどこで線引きがなされるのか、SARTRASでどの部分がなされるのか（限定的にとのことですが）についても今後気になります。
- ・日本の制度がどのあたりに着地するのか。

(以上原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・学内において著作権の啓もうが必要と考える
- ・本学でも FD 研修にて著作権法改正について実施があったが、今後も定期的に全学対象に行う必要があると思う。
- ・大学図書館における、「著作権に関する」責任感をもって取り組みたい。
- ・入学前教育と連携したピア・サポート等を行っています。
- ・教育の事例をまず共有することが大切だと思います。
- ・公衆送信 (LMS) で複製防止策の事例などに興味がある。動画を自分で右クリック保存できないよう工夫している。
- ・図書館の解体、library の構築
- ・1年生の導入授業で、図書館に行くことを習慣づける試みは必要と存じます。
- ・本日はありがとうございました。今後も質の高い、今日のような情報提供を期待しております。
- ・教育と研究との連関、自大学で利用できる学術情報の授業への活用の重要性を再認識しました。

(以上原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・いつも有意義な勉強をさせていただき、ありがとうございます。
- ・電子化が進んで行く中で、図書館はどのように対応して行かなければならないのかを知ることができ、その動向も知ることができ、大変勉強になりました。
- ・大変参考になるセミナーでした。ありがとうございました。
- ・著作権に対する意識が国民一般において高いことは、印象的でした。
- ・本日は、ありがとうございました。
- ・合意事項がまとまった段階で、図書館以外の大学の全関係者も含めて、内容を把握し、授業のコンテンツ作りに関わっていく必要があるだろうと思う。
- ・貴重なお話ありがとうございました。今後、引き続き注視して参ります。
- ・質疑応答がよくわからなかったので、アンケートで集めて、後ほど回答というかたちでもよいのでは？
- ・海浦さんの説明がわかりやすかったです。
- ・これから先、ICT、IoT 社会が進んでいく中で、円滑に利用できるライセンス体系ができると嬉しいです。特に学期・クラスを越えての利用が多くなると思いますので、その辺りの整備をよろしくお願いいたします。
- ・大学の中で仕事をしている大学生協の職員として「教育利用のサポート」を何らか担えないのか考えてみたいと思いました。
- ・貴重な機会をありがとうございます。
- ・わかりやすく充実した内容でした。ありがとうございました。
- ・まだまだつめていけないといけない点が多く、広い意味での予算工面や調査の必要性を感じる。
- ・3月の第3月曜とか、できるだけ定例化すると参加し易いのでは。
- ・国内の現状だけでなく、海外の状況に興味を持った。ありがとうございました。
- ・多様な参加者（大学関係者以外）からの意見も伺いたかったと思います。

(以上原文まま)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 27名 b. 千葉大学内の方 6名 (回答なし 8名)

(2) a. 学生 0名 b. 教員 12名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 8名 d. 図書館職員 16名  
e. 出版関係 1名 f. その他 4名

6. シンポジウムを何で知りましたか? (複数回答あり)

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 7名 b. Web(図書館) 1名 c. Web(千葉大学) 0名

d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 0名 f. センターからのメール 17名 g. Facebook・Twitter 0名

h. asagao メーリングリスト 3名 i. その他 15名 (知り合いからの紹介・図書館協会メールなど)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。(複数回答あり)

(1) 参加の経緯: a 所属機関からの推薦・業務命令 9名 b 自身の希望 30名

(2) 旅費の負担: a 所属機関負担 25名 b 自己負担 12名 c その他

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前:( ) ご所属:( )

電子メールアドレス:  申込時に利用したもの  それ以外 ( )

ご協力ありがとうございました。

※ 9名が新規に継続的な情報提供を希望